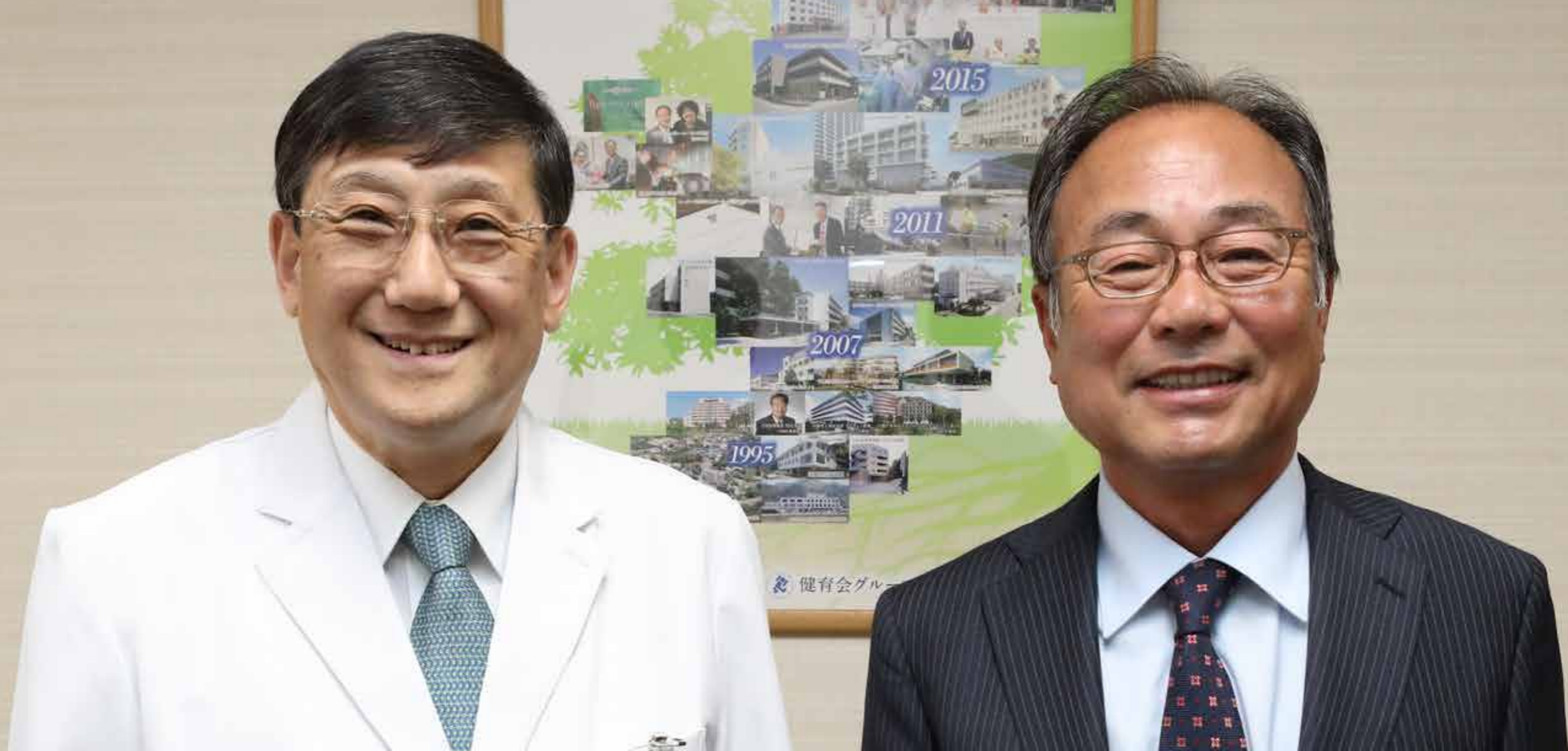


## 湘南慶育病院 鈴木新院長を迎えて

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



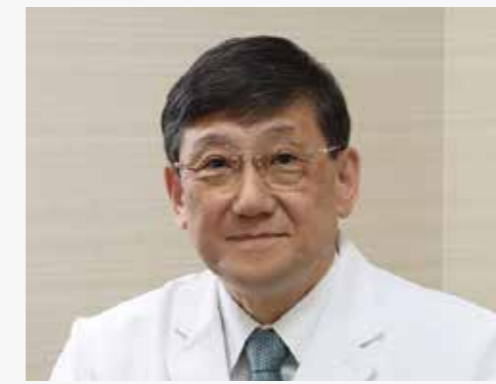
湘南慶育病院では2018年4月1日に鈴木先生を新院長としてお迎えし、新しい体制での運営がスタートしています。今回は、鈴木先生と湘南慶育病院のこれからについて対談を行いました。

## 2018年4月1日に湘南慶育病院 鈴木新院長就任

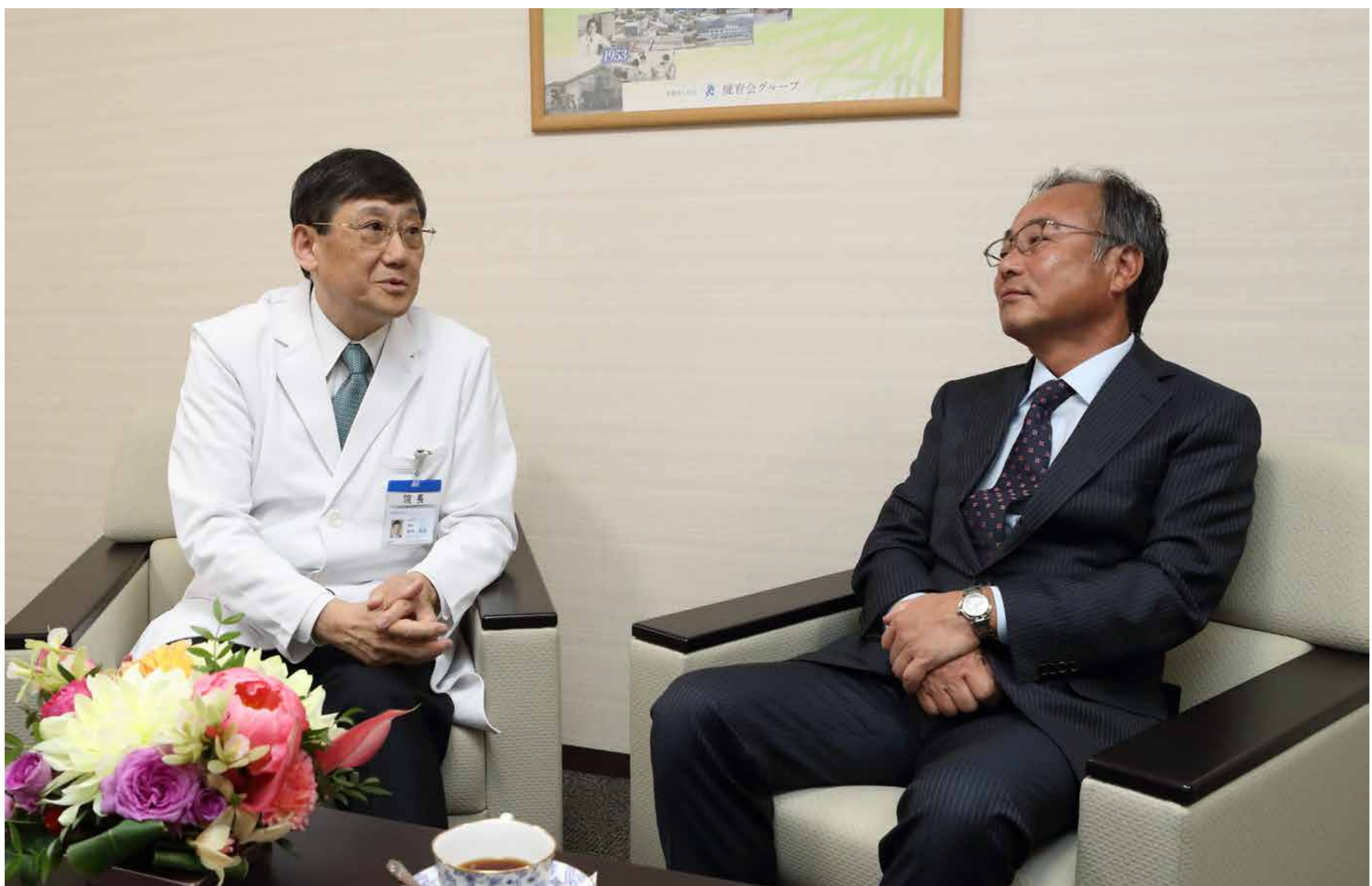
**竹川理事長** 鈴木先生には、慶應義塾大学医学部内科学（神経内科）教授を2018年3月末まで勤められて、2018年4月、退任の翌日から湘南慶育病院の院長に就任していただきました。慶應義塾大学病院 副院長、慶應義塾大学医師会 会長などを歴任され、また私が慶應義塾大学病院 研修医時代にお世話になっていた鈴木先生に、湘南慶育病院の院長をお引き受けいただき、大変嬉しく思っています。

**鈴木先生** ありがとうございます。竹川先生が研修医だった頃を懐かしく思い出します。あの頃、今日のこの日を迎えるなんて、全く想像していませんでした。教授退任の数年前に竹川先生から「今度、新しい病院ができるので、そこで一緒に働いてもらえないか」とお話しをいただいたときには大変びっくりしました。その後、前院長の松本先生からも具体的なお話をいただき、私としては身に余るようなお話でした。私は以前北里大学に勤務していた経験もあり、また慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）が藤沢市にあるという経緯から、この辺りの土地に近親感があるということもあり、熟慮の末、院長として勤めさせていただくことを決心いたしました。

**竹川理事長** 鈴木先生のご専門である神経内科は脳、神経、筋肉、末梢神経と幅広く全身の疾患を扱う内科で、病院の要となる科です。神経内科の現役の教授から、この病院の院長にされたということは、言葉では言い表せないくらい素晴らしいことだと思います。土地勘を持っていただいていたことも含めて、まさにぴったりの人材だと感じ、大変嬉しく思っています。

湘南慶育病院 院長 鈴木 則宏 先生  
プロフィール

**診療科** 脳神経内科  
**卒業大学** 慶應義塾大学医学部  
**専門医資格** 日本内科学会認定総合内科専門医  
日本神経学会認定神経内科専門医  
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医  
日本頭痛学会認定頭痛専門医  
日本認知症学会認定認知症専門医  
**略歴** 1997年 水戸赤十字病院 副院長  
2003年 北里大学医学部内科学 診療教授  
2004年 慶應義塾大学医学部内科学（神経内科）教授  
2007年 慶應義塾大学病院 副院長（兼務）  
2009年 慶應義塾医師会 会長（兼務）  
2018年 湘南慶育病院 院長  
**経歴** 日本脳卒中学会 理事  
日本頭痛学会 理事・代表理事  
日本内科学会 評議員  
日本神経学会 理事  
日本脳循環器代謝学会 理事  
日本微小循環学会 理事  
日本自律神経学会 理事  
日本神経治療学会 評議員  
日本認知症学会 評議員  
日本疼痛学会 評議員



## 周辺医療機関との連携を強化

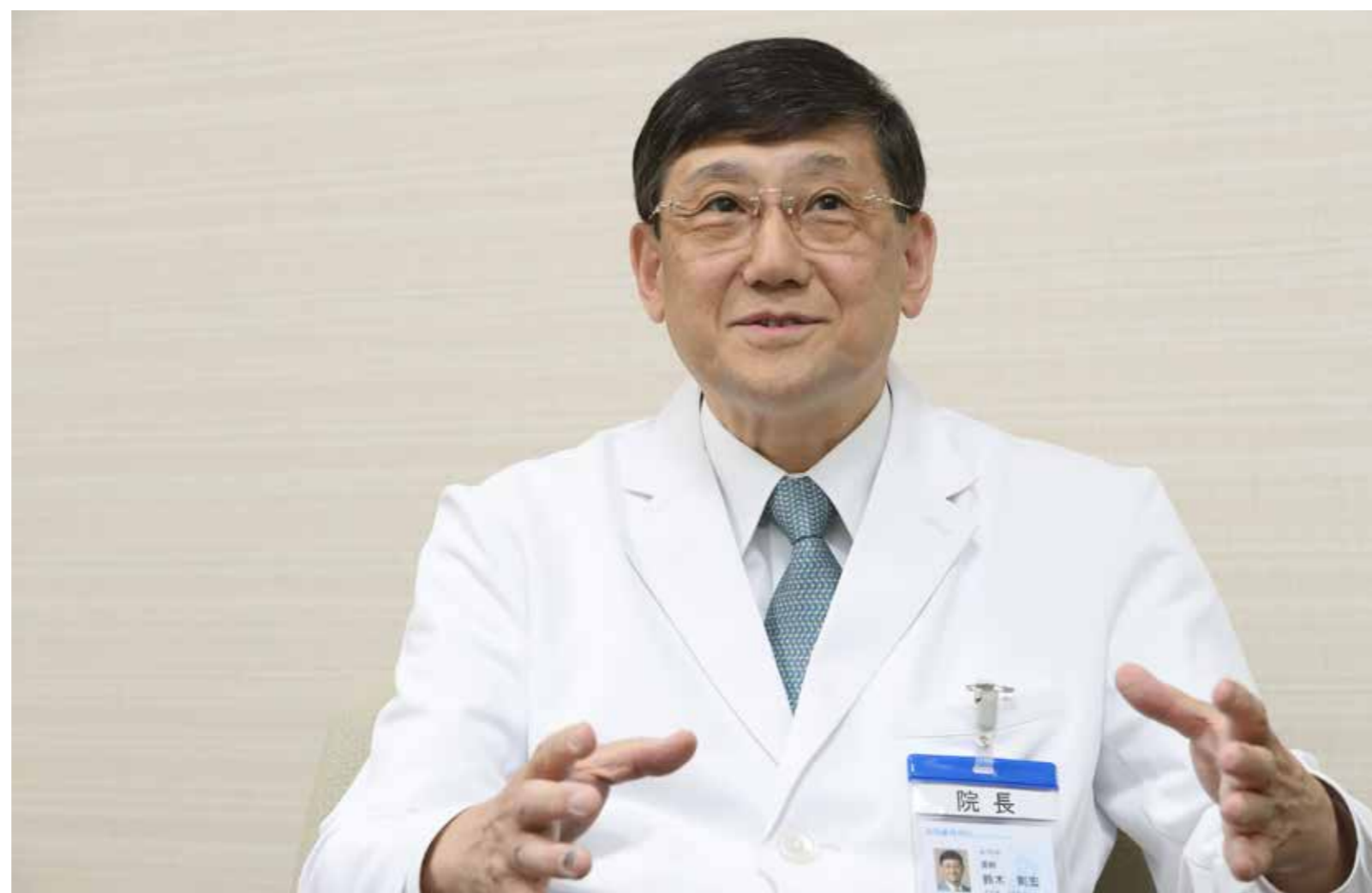
竹川理事長 着任して2ヶ月ほど経ちましたが、病院のはじめの印象はいかがでしたか？



鈴木先生 建物の印象は、患者さんと職員の導線がよく考えられていて、素晴らしいと感じました。そして何より建物内が明るいのがいいですね。光を沢山取り入れた建築構造というのは、患者さんの気持ちも明るくしてくれます。あと職員の印象ですが、私はいろいろな病院を転々としていたけれども、職員がしっかりと気持ちよく挨拶してくれる病院は、湘南慶育病院が初めてで好印象でした。

竹川理事長 そう言っていただくと、嬉しいですね。先生は、日赤病院や大学病院など様々な病院で働かれてきましたが、全て急性期の病院でしたので、湘南慶育病院との違いも感じられているかと思います。

鈴木先生 そうですね。湘南慶育病院は、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟と幅広いジャンルの病棟がありますから、着任してから、今、頭を切り替えて猛勉強中です。急性期病院では救急車が患者さんを運んで来ますから、自然に入院患者数も膨らんでいきますが、急性期だけではない湘南慶育病院では待っているだけではダメで、特に周辺地域の医療機関とのコミュニケーションが重要だと考えています。そこで近隣の病院を訪問し、その病院の院長先生はもちろんのこと、現場の医師ともコミュニケーションを取らせて頂いています。また、日本脳卒中学会や日本頭痛学会の代表理事などを勤めさせて頂いてきた私の経歴が逆に仇となり、「すごい人が来た」と引かれてしまうので、ちゃんと私自身が赴いてお話しさせていただくことが大切だと考えています。



竹川理事長 確かに鈴木先生のような素晴らしいご経歴の方であれば、周辺病院の先生方が構えてしまうのもわかる気がします。訪問先での反応はいかがですか？

鈴木先生 藤沢市医師会の先生方も含めて、実は非常に好意的な対応をいただいている印象です。例えば同じような性格の病院であっても「お互いが各々の得意分野で補完し合うような形で協力していきましょう」ということで良い形で話が進んでいます。とにかく湘南慶育病院も私自身も新参者ですから、「子どもは地域で需要が満たされていない部分を埋められる病院でありたい」ということをお話させていただいています。このように周辺医療機関との連携を大切にしていくのは、健育会の理念でもあると思います。

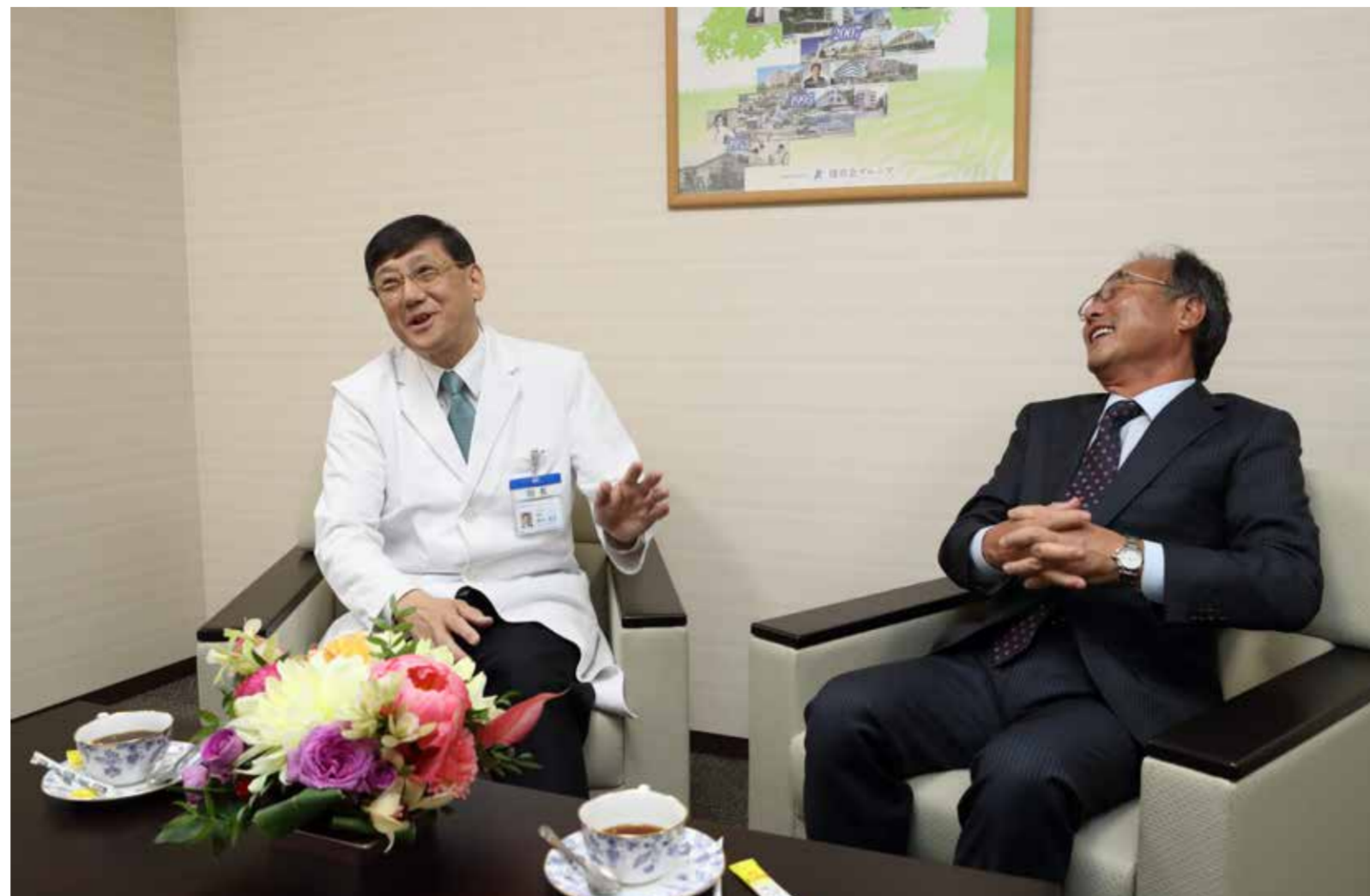
竹川理事長 まさにその通りです。健育会グループではビジョンに「クライアントの心を豊かにする病院グループ」と掲げていますが、そのクライアントとは、病院に関わる全ての方々です。そしてその中には、まさに周辺医療機関との連携も含まれています。



鈴木先生 なるほど。そういう意味でも、健育会の精神を周辺地域の皆さんに伝えていけるようになりたいと思っています。

## 慢性期医療の面白み

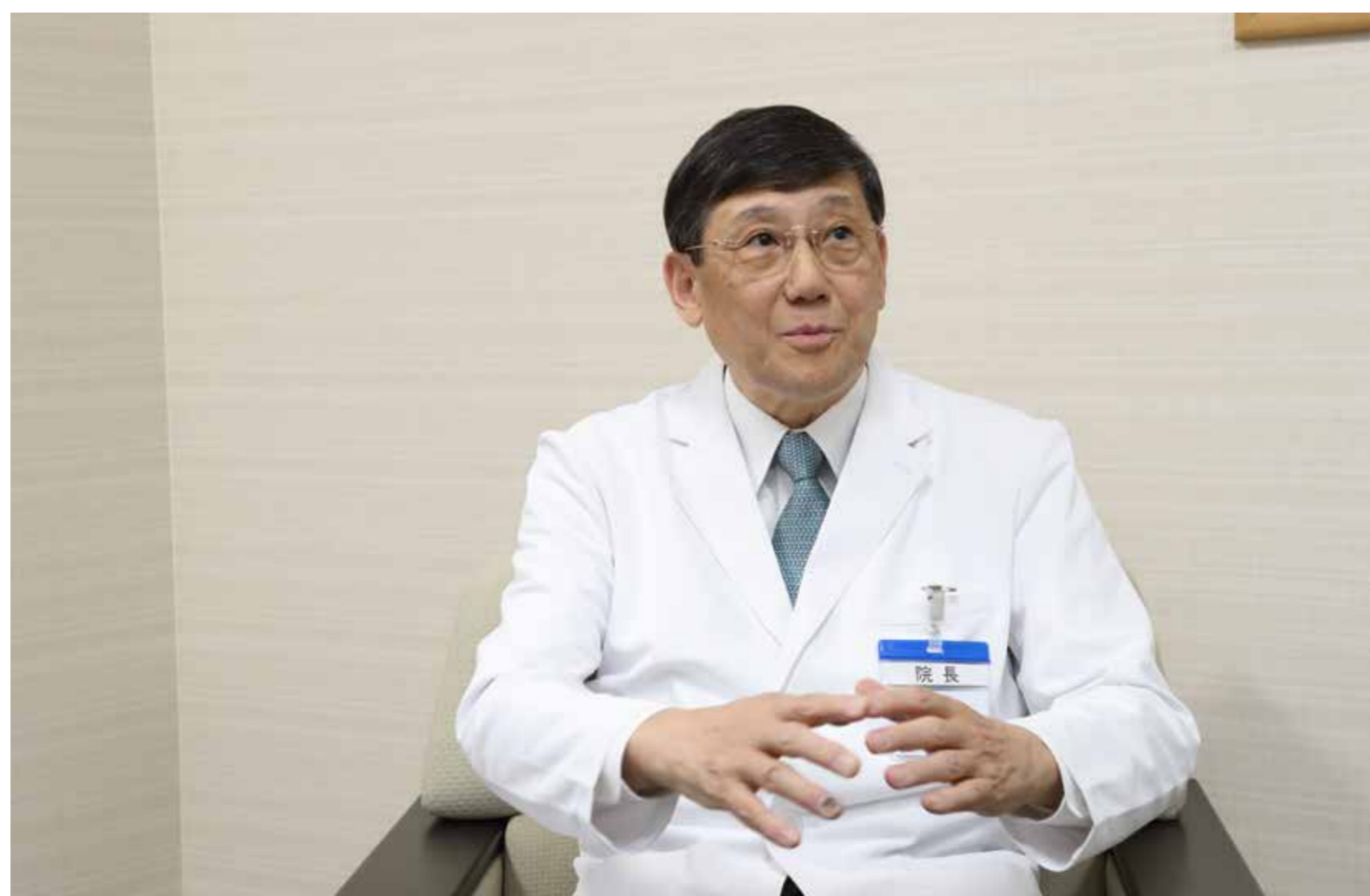
竹川理事長 私が研修医の時代は、今だとパワハラだと言われても仕方ないような教授もいらっしゃいましたが、鈴木先生は違いますね（笑）。先生を慕って、若い先生が入職されたと聞きました。



鈴木先生 その医師も含めて4月以降6名の医師が入職し、常勤医15名の体制になりました。そして、これからの課題でもありますが、各病棟で要となる中堅の医師を育成したいと考えています。幸いにも4つの性格の病棟がありますので、ドクター各々の持ち味を生かした配置をしています。ただ、ほとんどのドクターが急性期を歩んできた人なので、療養病棟に少しずつ馴染んでもらえるように配慮しています。

竹川理事長 急性期と慢性期は若干考え方が違いますからね。急性期は命を救うことが第一優先ですが、慢性期は「その人らしく生きていくために、医師が何をすべきか」を考えなくてはなりません。医師の役割を考えると、どちらも非常に重要でいずれ「その両方ができるこの病院はいいな」と感じてくれるのではないかと思います。慢性期に消極的であっても、やり始めて1ヶ月も経つうちに、「慢性期の医療も興味深いな」と思うようになると信じています。

鈴木先生 理事長のおっしゃる通りだと思います。やらないで、なんだかんだ言うのはダメですね。一方で、慢性期医療の面白みを先生方に教えるのも、私の役割だと思っています。SFCとの関係もあり、遠隔診療の取り組みなど超高齢化社会に向けて新しいことに取り組むことができる楽しさや環境もありますから、しっかりと伝えていきたいと思っています。



竹川理事長 そうですね。現在入職されている病院の先生方は、いずれ全員が慢性期医療の面白みがわかる医師になるのではないかと思います。また、来年から慶應義塾大学看護医療学部の学生さんの実習の受け入れを始める予定です。学生の間から、うちのような慢性期の医療を行なっている現場に来て学んでもらえるのは良いことだと思いますし、将来的には、慶應義塾大学医学部の学生さんにも、ぜひ湘南慶育病院に臨床実習にきていただいて、慢性期医療の医師の役割を学生のうちに勉強してもらえればと考えています。

## 次年度の黒字化を目指して

鈴木先生 4月の終わりにあった運営方針のヒアリングでは、理事長から大変厳しく喝を入れていただきました。



竹川理事長 研修医時代の私しか知らない鈴木先生からすると、きっと驚かれたことと思います（笑）。健育会グループの各病院の予算は理念に基づいて策定されており、予算数値は単なる目標数値ではなく、各病院・施設が当該会計年度に確実に達成しなければならない経営上のコミットメントという意味合いを持っています。

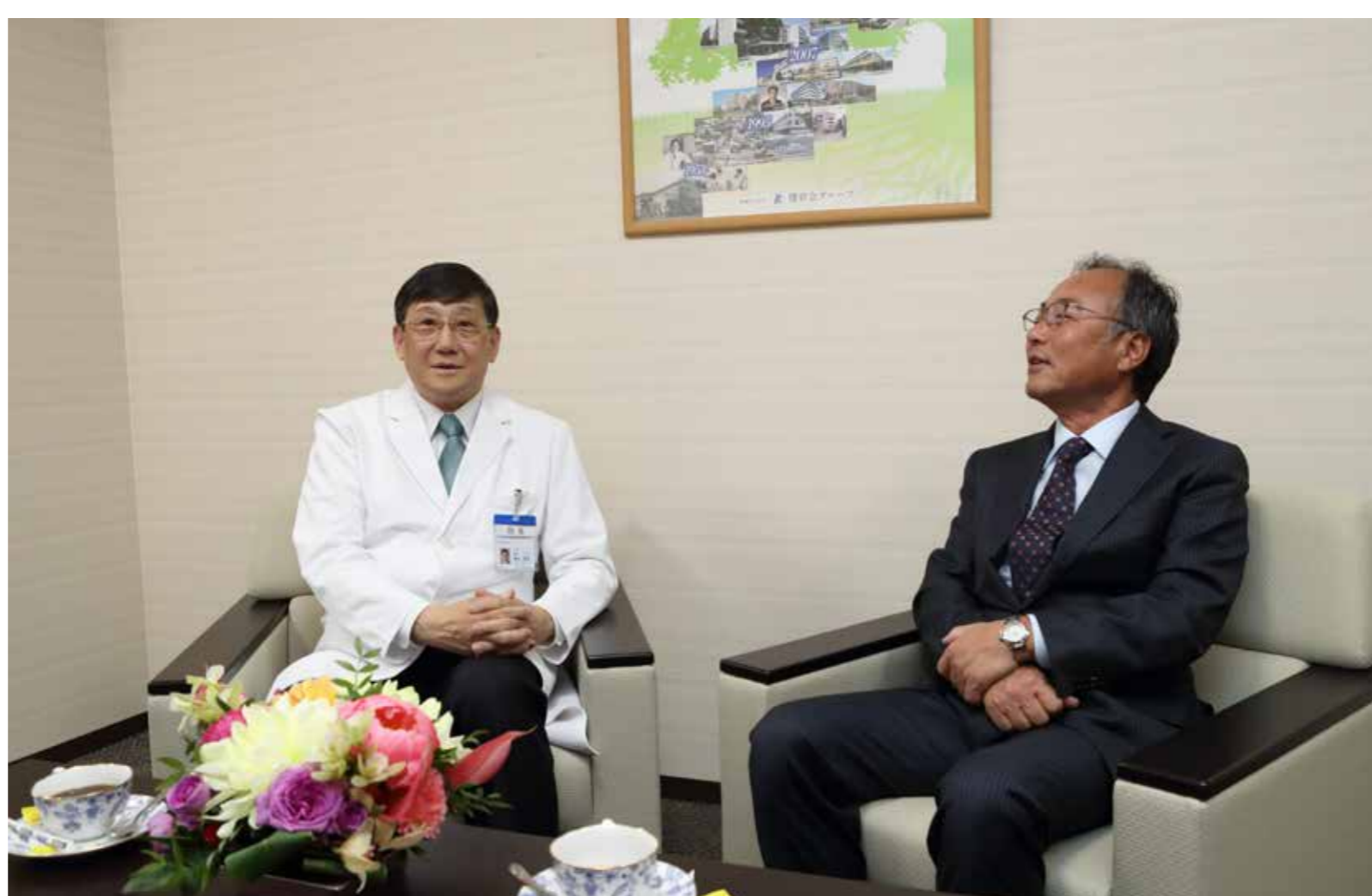
我々は民間病院グループですから、赤字であれば当然潰れてしまいます。しかし一生懸命工夫を凝らしてしっかりと経営していけば、黒字経営が可能だと考えています。もちろん湘南慶育病院も例外ではありません。ただ、今年度は病院全体として赤字予算にも関わらず、部門ごとの目標数値に対して「そのような高い数値は達成できない」と消極的な発言する医者がいたという話を聞き、健育会の目指す方向性や予算の考え方などについて、会議では厳しく話をさせていただきました。



鈴木先生 「男子三日会わざれば刮目して見よ」と言いますが、竹川先生のご成長ぶりをしっかりと拝見させていただきましたし、理路整然としていて厳しさの中に医療法人のビジョンが貫かれているのを感じました。また法人の目指すべき方向性をしっかりと示し、その方向に行くために努力を惜しむな、ということが伝わりました。今期は開院2年目と言うことに甘んじて大幅な赤字予算が計画されていますが、まずは今期の予算をしっかりと達成していくことが大事だと考えています。

竹川理事長 鈴木先生に私の発言の意図を汲み取っていただけて安心しました。湘南慶育病院はまだ病院理念が定まっていません。本来は病院予算の策定も理念に基づいて行われるべきであり、湘南慶育病院も早く病院独自の理念プロジェクトを立ち上げて病院理念の策定ができればと考えています。この病院は、もともと立ち上げの時から、藤沢市から「救急」、神奈川県から「慢性期医療、リハビリ」、そして慶應義塾大学から「共同研究」と、貢献すべきキーワードは定まっています。その要素を取り入れた理念を、現場から創り上げて欲しいと考えています。

鈴木先生 理念プロジェクトについては、私がリーダーとなり、これから病院を担っていく若手のメンバーを中心として策定していきたいと考えています。また、3年目にあたる次年度の黒字化というのは、今の状況からすると大変大きな目標だと感じています。しかしながら、私も教授時代に学生に無理を承知で高い目標を立てて邁進させましたし、そのような高い目標を立てると不思議と結果もついてくるものです。やっぱり目標は高く持つことが大切だと思いますので、頑張りたいと思います。



## 救急が本格オープン



竹川理事長 6月から平日日勤帯の救急の受け入れが稼働しました。6月4日早朝の病院幹部が出席するミーティングでは、私から直接スタッフの皆さんに救急への期待について話をしましたが、救急が欲しいというのは、藤沢市からのそもそものはじめからの要望で、そのご期待に応えられるようになるので、当初の目標を達成できたと感じています。



鈴木先生 本当にそうですね。早速、近隣の御所見地区と遠藤地区の救急隊の救急搬送の患者さんを受け入れましたが、救急隊から「こんなに充実した設備で、すぐにしっかり診てもらえるんですね」と言われたそうで、現場も手応えを感じています。まずは早くフルオープンできるように、綿密な人員配置、人員の増員等を行い、地域のニーズにしっかりと応えていきたいと考えています。

竹川理事長 健育会グループでは、西伊豆健育会病院と石川島記念病院で2次救急を行っています。特に西伊豆健育会病院は、近隣に大きな病院がないこともあり開業以来「救急を断らない」という考えで、実際直近の10年間は救急拒否ゼロを続けています。藤沢市においては、近隣に3次救急病院がありますが、湘南慶育病院を作る際にその病院の救急部長にご挨拶に伺ったところ、現在は軽症な患者さんから重症の患者さんまで様々な状態の患者さんが押し寄せてくる状況だということで、「軽症～中等症の患者さんについては、ぜひ川上で止めて欲しい」とおっしゃっていました。そういう意味で、近隣の3次救急病院からの期待も大きいと思いますので、「救急を断らない、まず診る」ということを基本方針にして欲しいと考えています。



## 今後に向けて

竹川理事長 湘南慶育病院は、健育会グループの中で最大のベッド数の病院です。医師についても現在、脳神経内科2名、消化器内科1名、リハビリテーション科4名、消化器外科1名、整形外科1名、眼科2名、呼吸器内科1名、腎臓内分泌代謝内科2名、放射線科1名の15名と最大の医師数になります。そのようなことから、できるだけ早くグループの中で模範的な病院になって欲しいと考えています。鈴木先生は素晴らしいご経歴をお持ちなのにも関わらず、営業なども自ら非常に腰を低くしてやっつけていただいているので、私としては大変期待しています。また、何より私の先輩ですから、いつまでも先輩には「ご指導いただきたい」と思っています（笑）。



鈴木先生 承知致しました（笑）。いかにして最短で、目指すべき病院へなれるかを色々と考えています。竹川先生には、色々ご相談させて頂きたいと思ひますし、問題が見えたときには指摘して頂ければ、すぐに是正しますのでよろしくお願ひいたします。

入院患者数は、4月30日時点では81名でしたが、5月1日に1病棟を追加オープンし、5月31日時点で4月末の1.5倍となる120名になりました。まだ救急の受け入れも少ないので、まだ病院のスタッフには余裕がありますが、おそらくこれから忙しくなってくると思います。まずは忙しいと感じられるまでになることを目標に、そして忙しくなったら、どうやって効率的な医療を行なっていくかということをしっかりと考えて行きたいと思ひます。

私自身も外来を担当していますし、病棟の全患者さんを毎週回診しています。現場に出ると色々問題点が見えてきます。院長だからと言って、部屋に籠ってはいけません。職員はもちろん患者さんとのコミュニケーションも大切にしていきたいと思ひます。



竹川理事長 おっしゃる通りだと思います。私も会議などで各病院・施設を訪れた際には必ず病院内をラウンドするように心がけています。患者さんやご家族の表情、働く職員の姿、設備のクリンリネスなど、自分の目で確認することは、とても大切なことだと考えているからです。また、週1回竹川病院で外来を担当し、現場感も養っています。鈴木先生も同じお考えということで、そういうところも素晴らしいと感じています。

湘南慶育病院は新しい病院ですから、これから色々問題は出てくるかもしれません。しかし鈴木先生であれば各方面の期待にしっかりと応え、最終的には良い方向にまとめてくださると感じています。大変、期待しています。

